

産衛だより

平成 17 年度第 3 回理事会議事録

日 時：平成 17 年 12 月 17 日（土）13：00～17：00

場 所：公衆衛生協会ビル 3 階会議室

出席者：清水英佑（理事長）、相澤好治（副理事長）、井谷 徹、上田 厚、圓藤吟史、大久保靖司、大前和幸、岡田章、加地正伸、川上憲人、岸 玲子、清田典宏、日下幸則、車谷典男、甲田茂樹、河野啓子、小林章雄、斉藤政彦、佐藤 洋、実成文彦、杉本寛治、田中勇武、角田 透、浜口伝博、東 敏昭、広瀬俊雄、藤田雄三、芳原達也、（以上理事）、大本美彌子、徳永力雄、（監事）

欠席者 能川浩二、高橋英尚（以上理事）

理事 28 名（委任状あり：能川浩二、委任状なし：高橋英尚）が出席し、定款第 25 条により理事会が成立していることを確認し、議事録署名人に上田 厚、岡田 章の両理事を決めた。

[審議事項]

1. 前回平成 17 年度第 2 回議事録は了承された。
2. 理事会理事旅費について、大前総務担当理事より、以前から検討していたが来年度より往復出すことで了承された。
3. 個人情報保護管理方針について、角田理事より、方針案が出され原案どおり了承された。新会員には始めから利用目的等を明らかにしておくことが提案された。また、運用の様式については角田理事に作成してもらうこととした。会員名簿については作成を前提に予算は立てているが次回理事会で検討することとした。
4. 表彰制度受賞者の推薦について、功労賞選考は井谷委員長より、4 名の推薦候補者を細則に則り検討した結果、斎藤和雄・鈴木美代・水梨律子・三宅浩次の 4 氏が推薦された。名誉会員選考は岡田委員長より、2 名の推薦候補者を検討した結果、鎌田隆・松下敏夫の 2 氏が推薦された。総会に提案することとした。奨励賞選考は能川委員長より、1 名の推薦候補者を細則に則り検討した結果、李卿氏が推薦された。学会賞選考は芳原委員長より、1 名の推薦候補者を細則に則り検討した結果、神山宣彦氏が推薦された。
5. 平成 18 年度予算案について、圓藤理事より、事業推進基金の監理・運用に関する規程案が出され、五千万円を基金とすることが提案され、了承されたので総会に回ることとした。役員改選で電子化するまでの間、地方会への交付金についても検討したが、次回理事会で予算全体について検討することとした。
6. 石綿問題に関する対応について、相澤副理事長より、小委員会でも検討し中間答申案を作成したが、もう一度小委員会で議論した後に理事会で検討する。さらに仙台の学会シンポジウムで議論しこれを基にして雑誌に掲載することの提案があった。総会後新たに非常設の委員会を設置することとした。

メンバーは相澤副理事長に任せることとした。

7. 第 81 回日本産業衛生学会開催について、岸理事より、2008 年に北海道地方会で開催との打診を受け検討した結果、引受けることとなったので理事会として総会に提案することとした。
8. 次回理事会開催日について、平成 18 年 3 月 18 日（土）に 13 時から公衛ビル 3 階会議室で開催することとした。
9. その他
 - ①アスベストを巡る法制度上の提案について、甲田労働衛生関連法制度検討委員長より、安衛則第 53 条では健康管理手帳の交付要件が示されているが追加要件を付け加えることを提案し、今後の対応について委員会を設置して検討していくこととなった。
 - ②生涯教育委員会について、車谷理事より、委員の推薦（加藤隆康・原 邦夫・山田誠二・藤代一也・畑中純子・黒田真理子・小木和孝・日下幸則・渡邊達夫）と車谷担当理事で委員長は第一回の新委員会互選で決定することとした。18 年度末までに「産業保健専門職のための生涯教育ガイド」を活用するための収集・開発をして研修の中で内容を取り入れるための調整をすることとした。
 - ③国際交流費助成金公募について、大前総務担当理事より、お知らせを雑誌に掲載することの提案がありました。
 - ④選挙方法について、浜口理事より、代議員の本人許諾は地方会にゆだねること、会員の選挙権・被選挙権確定の時期を現行より遅くすること、代議員の任期は 2 年とすること、中央選挙管理委員会を早く立ち上げ（半数交代）するため早目に委員を決めることの提案がありました。

[報告事項]

1. 第 78 回日本産業衛生学会収支決算について、清水理事長より、学会約 2,500 人、特別研修会 830 人の参加報告があった。決算報告の収支差額分 1,667,760 円は学会への寄付とした。
2. 第 15 回産業医・産業看護全国協議会について、芳原理事より、10 月 14・15 日（広島・宇土博企画運営委員長）に開催し終了したことの報告があった。
3. 第 79 回日本産業衛生学会について、佐藤理事より、現在 300 題の申込みがあり、研究会・シンポジウム・フォーラム等順調に進んでいることの報告があった。
4. 産業医部会報告について、岡田理事より、幹事名簿と役割分担報告、地方会における産業医部会活動の実態アンケート調査報告、会報（26 号）の発行、第 16 回全国協議会（新潟・9/23・24）のお知らせ、部会編集の「産業医活動をすすめる人のために」を発行したことの報告があった。
5. 産業看護部会報告について、河野理事より、産業看護師数が 1,063 人に増えたこと、PR 資料を作成中であることの報告があった。
6. 産業技術部会報告について、田中理事より、第 12 回を広島で開催したこと、第 13 回を仙台で行うこと、第 2 回研修会を仙台で行うこと、表彰委員会で 2 名を候補者として推薦したことの報告があった。

7. 専門医制度委員会報告について、東理事より、登録者数（指導医 251 人、専門医 124 人、研修登録医 382 人）の報告と 18 年度専門医試験の日程報告があり受験者の推薦の依頼があった。
8. 会員の状況について、大前総務担当理事より、正会員 7,170 人（12 月 8 日現在）の報告があった。
9. 協賛・後援等について、大前総務担当理事より、＜日本医療情報学会・後援＞＜日本空気清浄協会・協賛＞＜(社)日本循環器管理研究協議会・後援＞をしたとの報告があった。
10. その他
 - ①電子図書館サービスについて、大前総務担当理事より、新サービスへの移行が来年度から始まるが情報はいまままでしておりであるとの報告があった。
 - ②放射線原子力保健研究会世話人交代について、大前総務担当理事より、道家義和氏から神裕氏に交代したとの報告があった。
 - ③産業保健指導医講習会について、小林理事より、名古屋市中で平成 18 年 1 月に開催予定であったが、応募者数が少なかったので延期するとの報告があった。

- ・昨年は「産業医活動をする人のために」を出版でき、今後はこれを教材にした研修会も開催し、種々意見を踏まえてさらに改訂し、充実させることで一致した。
 - ・産業医部会のホームページの開設の具体策について、広瀬副部長を中心にとりまとめ、次回幹事会で討議することとした。
 - ・リレーワークショップ、産業医フォーラム、合同セミナーの成果をまとめ、学会誌に投稿する等活字化し、教材化することも提案され、各企画の担当幹事を中心に進めることとなった。かかる努力が、学会や理事会に政策提言できるような活動へと結びつけられとの思いが討議された。
 - ・現在、新型インフルエンザ対策が社会問題となっているが、これらを始め海外勤務者の健康管理について、産業医部会としての対応担当者として、岩田幹事、福本幹事、斉藤幹事、岡田部長を選定した。
4. その他
 - ・ポスター賞の選考委員に開催共催者を代表して 1 名加わっていただくことが同意された。
 - ・今後の課題として産業医の待遇、処遇問題を提言していくことも討議された。

平成 17 年度第 4 回産業医部会幹事会議事録

日 時：平成 18 年 1 月 12 日（木）14：00～17：00

場 所：丸紅東京本社 16 階 会議室

出席者：岩田全充、氏家睦夫、宇土 博、岡田 章、斉藤政彦、佐藤広和、高木 勝、中屋重直、昇淳一郎、浜口伝博、広瀬俊雄、福本正勝、藤代一也、松原 統、三好裕司、山田誠二

以上 16 名

（欠席者：井上正岩、佐藤修二、寺澤哲郎）

以上 3 名

（五十音順：敬称略）

議題：

協議事項

1. 平成 17 年度事業報告・会計報告、平成 18 年度事業計画について

岡田部長から資料をもとに報告があり、審議の結果一部修正の上、認められた。

2. 学術集会（平成 19 年度・大阪）について

産業医部会としての学術集会への提案内容が討議され、前回（仙台開催）の結果が引き継がれるようなテーマの選び方ができないか、との意見が出された。また、部会主導で企画したものであっても、学会会期中に行われるもの（例・産業医フォーラム）であれば、学会企画としての位置づけが与えられるよう、企画運営委員長に申し入れることとした。

3. 産業医部会の活動方針について

今後の活動方針について以下が協議された。

- ・従来よりのプロフェッショナルコース、産業医フォーラム、リレーワークショップ、合同セミナーの企画は、一定の評価を受け、好評であるため今後も継続していくこととした。

報告事項

1. 「産業医活動をする人のために」について

岡田部長より、無事発刊でき種々の手続きも終了したことが報告され、今後は幹事が中心となって販売促進に向け努力するよう要請された。

2. 第 79 回学術集会（仙台）について

広瀬副部長、中屋幹事より産業医フォーラムを含めて進捗状況が報告された。

なお、今後のフォーラムは三好幹事を中心に企画される旨の報告があった。

3. 第 15 回全国協議会（広島）について

宇土幹事、昇幹事より会計報告があり、合同セミナーについても報告された。協議会は 530 名の参加があった。（一般参加 150 名含む）

4. 第 16 回全国協議会（新潟）について

松原幹事（企画運営委員長）より配布資料をもとに、進捗状況の報告があった。

5. 産業医プロフェッショナルコースについて

浜口幹事（運営委員会委員長）より、第 8 回を広島市（第 15 回全国協議会）で開催したことが報告され、次回は仙台市（第 79 回学術集会）で、新しいプログラムである個人情報保護の開設も含めて開催が紹介された。

6. 地方会活動について

岡田部長より、学会理事会において、産業医部会が未設置の地方会に対して、積極的な設置の働きかけを地方会長に依頼したことが報告された。中国地方会と四国地方会は、従来から行って来た（昨年で 4 回目）合同研修会を継続していくとともに、部会組織の整備に努めていきたいと報告された。関東地方会は研修会開催予定であること、東海地方会では懇話会を開催予定であることが各々報告された。

7. 次回幹事会について

5月9日(火)11時から役員会, 13時から幹事会が, 5月11日(木)12時から産業看護部会との合同幹事会が開催予定されている旨報告があった。

8. その他

岡田部会長より, 部会細則, 規定の改正について資料をもとに報告された。また, 学会生涯教育委員会に山田幹事と藤代幹事を委員として推薦したことが報告された。

第107回労働衛生関連法制度検討委員会 議事録

日時: 2006年3月4日午後1時半~5時

場所: 東京八重洲ホールB会議室

出席者(五十音順, 敬称略): 五十嵐千代, 井谷 徹, 甲田茂樹, 野原誠一郎, 平田 衛, 宮上浩史, 矢野栄二

1. 中小企業における労働衛生について(資料107-1)

第105回委員会の提案を修正したものが平田委員から提案された。1) 法制度の問題点の視点から中小企業とするよりも50人未満事業所に限定する, 2) 前文に50人未満事業所の問題点を挙げる, 3) 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の視点から, (1) 事業者責任と労働安全衛生への事業者の関与, トップマネジメントによる支援, 奨励, (2) 労働衛生機関等の外部機関については別途検討する, (3) インダストリアル・ハイジニストも同前, (4) 事業所内部の衛生推進者等は, OSHMSに関するトップマネジメントを補佐し, 外部機関との窓口の役割を果たし, OSHMSを促進する役割を有する, (5) 産業医, 産業看護職, 産業衛生技術者などの産業保健専門職は, 主人公である事業所の労使を支援することを明確にし, その内容等を明らかにすること, 外部監査における役割もあること, などが指摘され, ワーキンググループに戻して再検討を依頼することとなった。

2. 産業看護職の法制度化に関するワーキンググループ報告(資料107-4-1, 4-2)

五十嵐委員から, 1) 産業看護職の労働安全衛生法上の位置づけを検討する, 2) 産業看護職の専門性(何ができるのか)を明らかにする必要, 3) フィンランドの例, 4) 日本看護協会の認定看護師の高いハードルと産衛学会産業看護部会の認定との格差, 5) 次回のワーキンググループ開催日, などの報告があった。それについて, 1) 産業医の経過のように低いハードルから始めるという考えはどうか, 2) 看護師と保健師との違いがわかりにくい, 3) これまでの通達と1996年の労働安全衛生法改定における記載からは保健師が主, 4) 他の職種も含めて次回産業衛生学会の際にシンポジウムのような形式で公聴会を開いたらどうか, などの意見が出た。

3. 第79回産衛学会時の派遣労働者における健康管理に関するシンポジウム(資料107-2)

矢野委員から, 健康管理上に大きな問題がある現状認識を共有することを目的とする, 法制度の改定方向などを検討するには至らない, などの報告があった。派遣先と派遣元の健康管理等に関する認識について質疑応答があり, 派遣期間の短期化,

正社員希望者が多いこと, などの意見があった。シンポの後に, 人材を募ってワーキンググループを継続することが確認された。

4. 石綿に関する労働衛生関連法制度について(資料107-3)

甲田委員から理事会の小委員会に関する報告があり, 当委員会が報告した件などについても再度, 検討し, 1) 手帳の交付条件について, 白石綿を含めて, 所見またはばく露期間(取扱期間に限らない)とするべきであること, 2) 船員は国土交通省の所管であるが, 所管が不明確な自営業者の健診については関係各省庁・団体が知恵を絞って対応すべきであることが確認された。

5. 次回第108回委員会は, 第79回産衛学会時の5月9日午後開催し, 以後は, 9月, 11月, 2または3月を予定する。

平成18年度新入会者

[北海道] 稲葉央子, 内澤裕子, 田村義之, 千葉 茂, 東川扶知子 [青森] 葛西智賀子, 三浦純子 [宮城] 佐々木潔子, 佐藤和一, 飛田 渉 [秋田] 佐々木真紀子 [山形県] 佐藤詔子 [福島] 朽木敏弘, 鈴木不二夫 [茨城] 内田理恵子, 小林敏郎, 津村由美子, 山岸一夫 [栃木] 小曾根衣子, 永井香織 [群馬県] 帆苺なおみ [埼玉] 安藤雄一, 篠原茂己 [千葉] 能川和浩, 藤田郁代 [東京] 青木千秋, 秋重智司, 浅川雅晴, 朝倉敬子, 足立尚子, 阿部尚美, 飯田倫照, 出江真弓, 板持有希, 一本麻保子, 一色美和, 出居真由美, 今井 保, 岩佐俊明, 岩田滉一郎, 遠藤源樹, 大道吉男, 岡安ふみ, 尾高朋子, 金子明実, 川上知子, 岸 正枝, 工藤 暖, 久原早弓, 坂本 進, 篠田 薫, 新谷奈苗, 末廣有希子, 圖書啓子, 鈴木あゆみ, 住田 恵, 祖父江かおり, 祖父江幸子, 高橋美香子, 田中三加, 玉生ゆうこ, 田村忠司, 徳永尊彦, 中 光恵, 中野真規子, 南郷里奈, 野本菜穂子, 羽入田芳生, 深川優子, 船渡川伊久子, 堀 晶子, 松井孝輔, 丸澤かほる, 道川武紘, 宮内清子, 宮島聡美, 三由恵実子, 武藤幸子, 村山正博, 望月由紀子, 森田十誉子, 山本由加里, 吉田 鈴, 吉永恵子, 渡邊栄子, 渡辺 静 [神奈川] 上野美樹, 尾之上さくら, 加志崎史大, 川並義也, 君塚真由子, 小堀悦孝, 斉藤義信, 佐藤慎子, 薄 宏, 田中陽子, 辻村静代, 西平浩一, 三澤晴雄, 村上響子, 山口 徹, 横田久美子, 吉田幸平 [新潟] 淡路千鶴, 木澤あゆみ, 佐藤裕子, 碓井雅博, 老子善康, 比嘉敏明, 表川勝成, 北尾 武, 中西由美子, 吉川弘明 [福井] 平井一芳 [長野] 川 成幸, 松下まゆみ [静岡] 中島容一郎, 永野哲弘, 吉原仁宣 [愛知] 池田 靖, 大岩絵美, 大場明夫, 岡本和士, 鏡味浩彦, 金子路江, 木田 明, 榎原卓也, 佐藤博貴, 篠田純治, 都築浩一, 富永知子, 中井美智子, 長谷部哲也, 蜂須賀智弘, 樋口耕造, 吉兼直文, 吉田美陽, 和田しおり [三重] 小西正芳, 小堀陽子, 櫻庭 陽, 松本大樹, 森邦正, 森重幸子 [京都] 江島桐子, 川畑真理, 鮎子田睦子, 村上玄樹 [大阪] 秋山恵美, 一色 弘, 稲葉真希子, 浦西友喜枝, 楠本真理, 佐伯美奈子, 實森千香子, 塩山浩江, 高橋やよい, 高森行宏, 立花やよい, 谷田会里, 中山訓仁子, 西田光子, 西村与志郎, 二宮貴子, 唄野まり, 樋上幸一, 福井由布子, 星奇政子, 真鍋恵子, 本比田真百美, 若山公作 [兵庫] 栗原伸公,

迫久美子, 福岡和也, 藤川雅愛, 馬 露, 松村雅子, 山下健三 [奈良] 田中和宏 [鳥取] 石飛玲子, 三澤さとみ [岡山] 本多公子 [広島] 植田真由美, 大庭祐美, 小関知佳, 齊藤愛子, 佐々木邦香, 菅真由美, 竹下立子, 富永理絵, 中村華代, 中山訓彦, 平岡正史, 真鍋里恵, 三河さやか, 山戸邦子, 六百田佳枝 [香川] 詫間好恵, 松尾裕英 [福岡] 浅海 洋, 阿部紀代美,

阿部陽子, 荒木登茂子, 植村文子, 内堀祐嗣, 大森 将, 重田尊子, 田中裕子, 中村千夏, 畠山佳久, 水口要平, 茂原 研, 森まき子, 吉成元孝, 林若女帝 [熊本] 吉田奈美, 龍造寺明子 [宮崎] 黒木和志郎 [鹿児島] 三宅 彩 [沖縄] 高良和代, 奥那嶺勝枝

会費納入のお願い

本年は, 学会役員改選の年に当たります. 正しい選挙人名簿作成の為に学会費を完納頂かねばなりません.

前年度より引き続き正会員であり, かつ7月31日までに会費を全納しない時は規約により, 選挙権及び被選挙権がなくなりますので至急お支払い下さい.

(払込用紙は, 48巻1号に入っております)

*用紙のない方は郵便局の青色用紙をお願いします.

口座番号: 00100-7-133495

加入者名: 社団法人日本産業衛生学会

*行き違いで送金された方, 退会の方は必ずご一報下さい.

日本産業衛生学会 事務局

第80回日本産業衛生学会 (第1報)

第80回日本産業衛生学会 企画運営委員長 圓藤吟史

1. 会期: 学会 2007年4月25日(水)~27日(金)
特別研修会 2007年4月28日(土)
2. 会場: 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)
大阪市北区中之島5丁目3番51号
3. メインテーマ:
「ハイリスク社会と向き合う産業保健活動」
4. 演題申込・原稿締切: 2006年12月中旬頃(予定)

詳細は, 今後「産業衛生学雑誌」に掲載するほか下記のホームページ等でも順次公開していきます.

連絡先:

(1) 本部事務局

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

大阪市立大学大学院医学研究科産業医学(環境衛生)内

第80回日本産業衛生学会 事務局(担当 清田郁子)

TEL: 06-6645-3751 FAX: 06-6646-0722

(2) 登録事務局(事務局代行)

〒530-0001 大阪市北区梅田2-2-22 パービスENT 11階

株式会社 ジェイコム コンベンション事業本部内

第80回日本産業衛生学会 登録事務局

(担当 清村, 渡部)

TEL: 06-6348-1391 FAX: 06-6456-4105

E-mail: 80sanei@jtbcom.co.jp

URL: <http://80sanei.jtbcom.co.jp/>

第37回 生物学的モニタリング・ バイオマーカー研究会 一般演題募集

日時: 平成18年10月13日(金) 13:30~17:00

会場: 東京産業保健推進センター

(〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル3F)

特別講演:

「化学物質のリスク評価と有害性曝露作業報告について」

高橋祐輔先生(厚生労働省労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 化学物質評価室長)

招待講演:

「がん診断のバイオマーカー」

野村和弘先生(東京労災病院 院長)

一般発表(口演): 6-8題予定

演題締め切り: 平成18年9月13日(水)

演題申込先: 東京労災病院・産業中毒センター 小川真規

masa-oga@tokyoh.rofuku.go.jp まで.

(演題名, 発表者をメールでお送りください.

後日抄録をお送りいたします.)

世話人: 圓藤陽子(東京労災病院・産業中毒研究センター)

事務局: 小川真規(東京労災病院・産業中毒研究センター)

〒143-0013 東京都大田区大森南4-13-21

Tel: 03-3742-7301 Fax: 03-5735-9977